

2020年度事業報告書

自：2020年4月1日

至：2021年3月31日

I. 事業実施概要

2020年度は、まさに新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け続けた1年であった。緊急事態宣言は全地域で解除となっているが、日本経済の先行きは極めて不透明であると言わざるを得ない。

酪農乳業界を振り返ると、行政の各種支援に加えて酪農乳業関係者による生乳生産基盤強化の取組みにより、生乳生産量は前年を上回り堅調に推移した。

需要に目を移すと、コロナ禍の下で学乳休止や外出自粛、緊急事態宣言の発令により外食向け等、業務用の牛乳・乳製品需要は大きく落ち込んだ一方、巣ごもりにより内食機会が増加し、農林水産省（以下「農水省」という）による消費拡大に向けた「プラスワンプロジェクト」は、関係者の一丸となった取組みにより予想を超える大きな盛り上がりを見せた。家庭用の牛乳や発酵乳、バター等は需要の底上げを図ることができたが、業務用の落込みを埋め合わせるまでには至らなかった。国内のバター、脱脂粉乳の在庫は非常に高い水準にあり、私たち乳業者の大きな負担となっている。このため、農水省で予算措置された国産脱脂粉乳・バターと輸入調製品等との置き換えを図る「国産乳製品需要拡大緊急対策事業」の事業実施主体として、事業を活用する乳業者に対してサポートを行う所存である。

直近の生乳生産も好調に推移しており、新年度に向けて乳製品向け乳量が増加して行くことから、生乳需給の大幅な緩和が懸念される。全国的な需給調整や最大限の生乳処理努力とともに、牛乳乳製品の消費拡大の取組みを、これまでも増して、酪農乳業界が一丸となって進めることが重要と考える。

中長期的には、2020年3月に策定された2030年度を目標年度とする新たな「酪肉近代化基本方針」において、わが国酪農の最大の課題を「特に都府県における生産基盤の維持・強化」と位置づけた。780万トンという意欲的な目標の達成に向けて生乳生産を回復軌道にのせることが重要であり、そのためにも、業界関係者が力を結集し、年度末の生乳生産と処理のバランスを均衡させなくてはならない。

国内外の環境変化のスピードが年を追うごとに増しているように感じる中、当協会では中長期的な視点にたち、新型コロナウイルスとの共存という新たな環境下における酪農乳業のあり方に加え、「酪農乳業産業基盤強化特別対策事業」への協力はもとより、「酪肉近代化基本方針」と並行して策定されたJミルクの提言に示された業界の取組みについても検討を開始した。

国際関係では、T P P 1 1、日欧E P A、日米貿易協定の進展、日英E P AやR C E Pの合意と、グローバル化はそのスピードを加速し、民間貿易による乳製品輸入量の増加が見込まれた。

当面、国内の牛乳・乳製品需給への影響は限定的なものであると言われているが、国内需給の変化もある中、引き続き為替や国際相場も含めてその動向を注視するとともに、会員への情報発信にも努め、必要に応じて業界意見を集約し、行政へ要請するなど適切な対応を行ってきた。

更に、日本の酪農乳業もデーリーロツテルダム宣言に署名しており、S D G sの達成に向けた環境配慮やアニマルウェルフェアへの対応等、国際的な共通課題の解決に向けた取り組みの必要性が益々高まるため、情報収集を更に強化し、それらの取り組みに乳業としての意見を反映・発信してきた。

H A C C P制度化への対応では、2018 年 6 月に食品衛生法が改正され、主な改正点のひとつとして、全ての食品事業者にH A C C Pに沿った衛生管理が義務化され、2021 年 6 月から完全施行となる。

当協会では、品質管理に関する人材育成事業や小規模事業者向けのH A C C P手引書の作成などを行っているが、H A C C Pがこれまでのマル総の承認制度から全ての事業者における義務へと深化することから、「H A C C P手引書講習会」を開催するなど従前の取組みを一層強化し、牛乳乳製品の安全に係る信頼性の向上に努めていきたい。

環境関連では、菅首相が 2020 年 10 月 26 日の国会での所信表明演説の中で、日本政府として 2050 年までに二酸化炭素ネット排出量ゼロ（カーボンニュートラル）にするとの方針目標を表明した。また、同じくレジ袋の有料義務化が実施されるなど、プラスチック資源の総合的な回収・リサイクルの推進のため具体策が進められた。当協会でも「低炭素社会の実現」や「循環型社会形成推進」のため、継続して経団連の自主行動計画に参画し、業界が自主的に定めた目標達成に向けてその活動を継続してきた。また、環境問題の深刻化が酪農乳業にもたらす影響等についても、その把握に努めるとともに情報の発信・共有化を進めて行きたいと考えている。

新型コロナウイルス感染症の影響で社会環境が大きく変わり、「新しい生活様式」が定着する中、日本の酪農乳業も新たな視点での取組みが求められているが、将来をしっかりと見据えた上で方向性を見定め、足元も含め課題を一つずつ着実に解決していくことの重要性が一段と増してくるものと感じている。

環境変化や会員ニーズ等を踏まえ、本年度も当協会は下記の通り 5 つの重点課題に取り組んだ。

< 重点課題 >

- 1) 品質及び安全性の向上による消費者の安心・信頼の確保

- 2) 牛乳・乳製品の普及・啓発
- 3) 乳業事業の改善
- 4) 国際化の進展への対応
- 5) 環境・リサイクル対策の推進

II. 事業内容

1) 品質及び安全性の向上による消費者の安心・信頼の確保

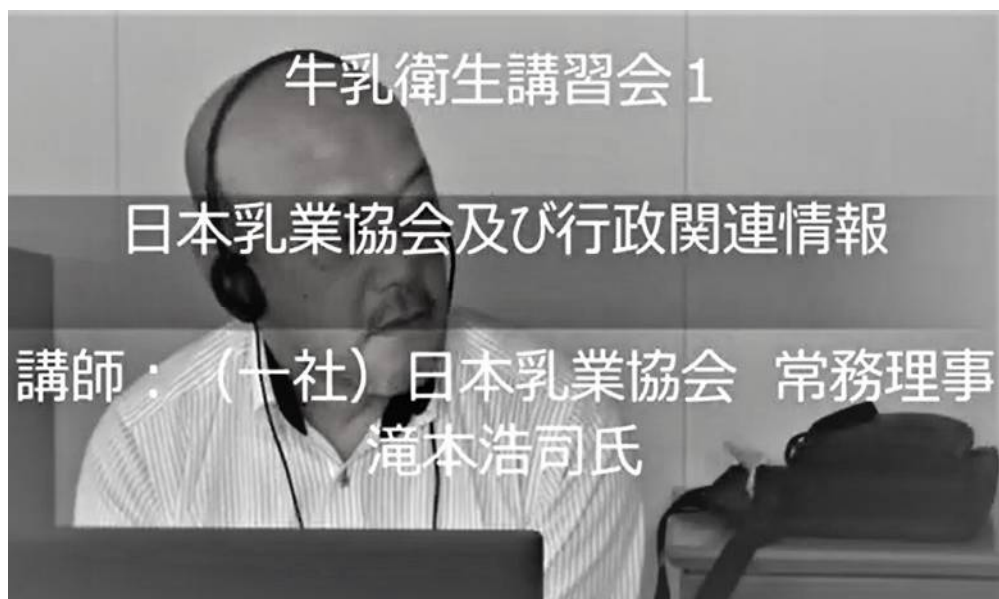
(1) 牛乳・乳製品の安全確保、品質向上

①乳業施設の衛生・品質管理体制強化のための取組み

A. 牛乳衛生講習会

牛乳等の衛生管理水準の向上、特に中小規模の乳業工場の底上げを図る観点から、若年の製造・品質管理者等を対象とし、各都道府県協会と当協会の共催で例年実施している牛乳衛生講習会は、年度計画では全国 17 会場での講習会開催を予定していたが、集合型の講習会での新型コロナウイルス感染を懸念して14会場で中止となった。9月15日東京会場では共催者の東飲協と協議の上、オンライン形式での配信型講習会を行った。12月2日群馬会場、3月9日静岡会場では県協会の要望を受け、受講者を制限し感染防止に配慮した中で集合形式の講習会を開催した。

中止会場が多くなったが、協会からの情報提供、衛生管理の知識向上教育は必要と考え、中止の決まった道府県協会については講習会テキストを配布した上で、講習動画をオンライン視聴によって学習をする方式に代替する対策を行った。オンライン視聴は延べ200回程度あり、代替効果はあったものとする。



牛乳衛生講習会（オンライン配信動画）

B. HACCP講習会実務コース

本コースは総合衛生管理製造過程承認施設等の担当者を対象に、これまで実施してきたHACCPシステムについて、相当程度の知識を有すると認められる者を養成するためのHACCP専門家養成講習会から、HACCPに基づく衛生管理知識の習得を図る実務コースに内容を変更し、東京及び大阪で計2回、下期での開催を計画した。

しかし、講習会が3日間にわたるグループワークを中心として集合講習会であるため新型コロナウイルス感染防止の観点から開催は困難と判断し、今年度は中止とした。

C. HACCP手引書講習会

HACCPに沿った衛生管理の制度化に対応する支援策として「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理計画作成の手引書」を用いた講習会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症流行により応募者少数のため中止とした。

D. 官能評価員育成研修会

官能評価に関する講義及び演習により、乳業施設などで官能評価員として必要な知識と技能を段階的な研修により習得することを目的とした本研修会は当協会主催で実施してきたが、本年より主催を（公財）乳業技術協会（以下「乳技協」という）に移管された。今年度は乳技協の検討会に委員として参画、生乳サンプル提供等研修会の実施に協力した。

② 牛乳・乳製品の法改正や表示に係る取り組み

食品衛生法、乳等省令、食品表示基準等の改正への協力と当協会への要望等の的確な反映、当該法令等の内容の会員への周知徹底を図る目的で以下の活動を行った。

A. 牛乳等の容器包装に係る規制の見直し

乳等省令で牛乳等の容器包装の樹脂添加剤に厳しい規制があり、消費者の利便性に配慮した容器改良が難しいことから、規制の見直しを求める検討を行った。規制当局との調整の上、10月8日に当協会と乳容器機器協会の両会長名で厚生労働大臣あての要望書を提出した。

要望内容は2021年1月14日に厚生労働省（以下「厚労省」という）「薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会器具・容器包装部会」にて審議、大綱了解となった。さらに3月23日内閣府食品安全委員会で審議され、内容承認の上答申された。

B. 食品表示新基準に対応した乳製品表示ガイドラインの整備と周知

乳製品表示委員会で新基準に対応したガイドラインの改定検討を行い、消

費者庁に内容のチェックを依頼、12月13日に確認を得た。ガイドラインは1月末に製本して会員企業に配布したほか当協会ホームページの会員サイトに掲載した。食品表示法や食品表示基準の基礎知識の習得と、グループ演習を通して理解を深める目的で例年開催している「乳製品表示講習会」は年3回開催予定であったが、上期2回は応募者少数のため中止となった。第3回講習会は2月5日に開催を計画していたが、緊急事態宣言が発出されたため集合形式の講習会を中止、代替措置としてオンデマンド配信形式での講習会を実施した。

法律の名称	表示の主旨
食品表示法	食品を摂取する際の安全性、消費者の自主的かつ合理的な食品選択の機会の確保
不当景品類及び不当表示防止法(景品表示法)	不当な景品類及び表示による顧客の誘引を防止
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)	医薬品と誤認される効能効果の表示を禁止
計量法	内容量等の表示

乳製品表示講習会（オンデマンド配信画面）

C. 脂肪酸エステル類、グリシドール脂肪酸エステル類等の対応

農水省より「3-MPCD脂肪酸エステル類、グリシドール脂肪酸 エステル類等の手引き」作成にあたり内容について業界としての意見を求められた。各社からの意見を集約して要望した結果、要望は全て内容に反映された。

③ 生産技術委員会等の適時開催

生産技術委員会は7月14日に第1回委員会を開催し、生産技術部の活動状況を報告したほか、Jミルクの提言に対する当協会としてのアクションのうち制度に関する事項を生産技術委員会メンバー主体で検討を進めることを説明、了承を得た。提言内容には法改正等に関する項目があったので、生産技術委員にアンケートを実施し、各社の要望内容を集約した。2月16日に第2回委員会を開催し、アンケート結果を踏まえた提言案を討議し、事務局案が了承された。提言の内容は他のWGの提言と共に2月17日の乳業基本問題検討委員会で検討され、了承された。

④ その他

A. HACCP手引書の作成・承認

前年度より検討を続けているバター、クリームの手引書の修正、追加を行ってきた。12月23日に厚労省にて検討会が開催され、手引書の内容について質疑を受けた。委員からの指摘内容に基づき手引書案に修正を加え、3月末に承認を受け、4月2日より厚労省HPのHACCPサイトで公開された。

B. 牛乳中の残留農薬検査

生産者における残留農薬低減への取り組みの検証として、毎年牛乳の農薬等残留検査を実施してきた。本年も2月に全国7カ所の製品サンプルを分析したが、いずれも検出限界以下であった。検査結果は協会ホームページに掲出した。

(2) 牛乳等衛生功労者の表彰

前年度同様、8月21日に選考会を実施し候補者全員の承認を得た。11月13日に表彰式を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となり、表彰状、記念品の送付に代替した。厚生労働大臣表彰者は、タカナシ乳業株式会社の高梨社長、サツラク農業協同組合の大坪組合長、株式会社ホリ乳業の堀社長の3名が受賞した。11月13日開催の理事会に出席した高梨社長には、理事会終了後、来賓出席の厚労省・三木食品監視安全課長より表彰状を授与した。

2) 牛乳・乳製品の普及・啓発

牛乳・乳製品の消費拡大に向けた下支えとして、一般消費者を対象とした、牛乳・乳製品に関する知識や新たな知見の普及・啓発活動を推進し、「乳」への理解促進と食生活における習慣化を図るべく取り組んだ。

推進にあたっては、Jミルクや中央酪農会議等の関係団体及び乳業各社と、活動の内容や連携、機能分担等について検討しながら進め、また、当協会のパブリシティ向上を図るため、オピニオンリーダーや専門紙誌記者に対する活動も継続して行った。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、予定していた食育事業やセミナー、イベント等がほぼ中止または延期と、各事業の取り組み実績に影響を及ぼした。

一方で、当協会のホームページを利用し、農水省の「プラスワンプロジェクト第1弾・第2弾」を紹介する等、牛乳・乳製品の消費拡大の呼びかけや需給状況についての情報発信をしたほか、感染防止策を講じたうえで、3密を回避するやり方を取り入れた普及・啓発活動を実施した。

(1) 食育事業・相談対応

① 相談対応

電話、食育授業・食育勉強会、研修会、イベント等における相談・問い合わせに迅速かつ的確に対応した。今期は食育事業やイベント等が実施できなかったため、電話による相談・問い合わせがほとんどで、年間総相談件数は408件（前年同期1503件）と大きく減少した。

② 学校・教育関係者、保護者対象の食育勉強会

中高生の牛乳飲用習慣の拡大のために、牛乳・乳製品の栄養的重要性を中心に説明する、学校・教育関係者および保護者に対する「食育勉強会」を最重点活動と位置付けている。本年度は申し込み33回（前年65回）、実施10回（前年70回）であった。

調理実習ができなかったため、料理レシピを刷新するのに併せて、動画を製作し、勉強会で活用できるようにした。

③ 小中高生対象の食育授業

学乳期の小中学生およびポスト学乳期の高校生を対象として、牛乳飲用習慣定着化のための「食育授業」は、申し込み105回（前年153回）、実施65回（前年160回）であった。

実施にあたっては、当協会で作成した「感染症対策のための乳協食育事業実施ガイドライン」を基に学校側と協議し、フェイスシールドや拡声器等を使用し、講話のみ（料理実習なし）で行った。

また、今後のオンライン授業の普及拡大に備えて、オンラインでの実施や動画収録した授業を視聴できるようにする等の検討を進めている。

④ 大学生対象の「3-A-Day セミナー」

将来、小中学校の食育や給食献立に関わる栄養学系学生を中心とした大学生を対象に、牛乳・乳製品の栄養的重要性と、小中高生の食生活における習慣化の重要性を理解してもらう「3-A-Day セミナー」は、本年度も年間8校を目標にしていたが、ほぼ中止となり、講義内容を収録した動画を制作し、オンラインで1校にて実施した。



3-A-Day 動画撮影風景 女子栄養大学 上西教授

⑤ 業界関係団体のイベントへの参画

当協会の食育活動内容の紹介と食育勉強会や食育授業の実施促進を行うべく、Jミルク食育関連研修会、食育推進全国大会、全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会、モーモースクール、東京都健康づくりフォーラム等への出展・参加を予定していたが、本年度は全て中止となった。

(2) 「おいしいミルクセミナー」の開催

Jミルク・中央酪農会議と共催で、牛乳・乳製品の栄養的重要性やそのおいしさ、たのしさを直接消費者にアピールし、消費の裾野拡大を図る機会として、中央酪農会議による酪農ミニ講演、有識者による牛乳・乳製品の栄養的価値に関する講演、小山浩子氏による乳和食の調理実演と試食、乳業メーカーによる試飲・試食コーナーで構成するセミナーを3会場で予定していたがすべて中止とした。

一方で、今後に向けた新たな試みとして、オンラインでのセミナーを12月5日に開催し、全国約140名の視聴者にライブ配信した（会員向けには12/21～1/13にオンデマンド視聴を実施）。参加（視聴）者も全国に拡大でき、内容も好評であったことから、会場集合方式と組み合わせて継続していきたい。

おいしいミルクセミナー オンライン 2020

アンケートに答えると抽選で小山先生の著書をプレゼント

参加無料 要お申込み

牛乳・乳製品の栄養、おいしさ、たのしさを学んでいただける「おいしいミルクセミナー」をオンラインで開催いたします。「牛乳の栄養・大切さ」についての講演と、「乳和食」の料理講習に、全国から、どなたでも、ご自宅のパソコンやスマートフォンからライブでご参加いただけます。ぜひ、この機会に牛乳・乳製品について勉強してみませんか？

自宅ですま水やパソコンから参加できる！

皆さんの顔や声は映りません

カメラ・マイクはオフモードで参加OK！

簡単作り置きテクニックをご紹介します！事前材料をお知らせしますので、ぜひ一緒に作ってみませんか？

12月5日土 11:00～12:00 定員 300名

牛乳の健康機能
～成長期からの牛乳摂取こそが強いカラダづくりのカギ！～
日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 食品科学科 教授 戸塚 護さん

乳和食セミナー
～今日からストック～
～やさしい、おいしい乳和食～
暮らしに役立つ牛乳の利用法3品(予定)のご紹介
料理家・管理栄養士 小山 浩子さん

主催：一般社団法人日本乳業協会 ■共催：一般社団法人Jミルク、一般社団法人中央酪農会議 ■後援：産経新聞社

「おいしいミルクセミナー」案内

(3) 都道府県協会主催のイベント等での食育活動

牛乳・乳製品を摂ることの重要性を直接消費者に伝える貴重な機会として、都道府県協会からの申請に基づいて、畜産フェア等のイベントにおいて骨密度測定や相談員による食育活動を行うべく、都道府県協力事業として5件を採択したが全て中止となった。

(実施予定日順)

協会名	実施予定日	事業名
京都府牛乳協会	9月2,3日	府立田辺高校 骨密度測定及び栄養指導【中止】 動物感謝デーin KYOTO 2020 出展【中止】
岩手県牛乳協会	9月26日 10月24日	くずまき高原牧場 IN 中津川【中止】 洋野町農業祭【中止】
北海道乳業協会	11月13日	講演：「減塩と高血圧について」「おいしい減塩料理ー乳和食」【中止】
大阪府牛乳協会	12月10日	府立布施北高校 骨密度測定【中止】
福岡県牛乳協会	3月7日	福岡県教育委員会、福岡県学校給食会「学校給食フェア」骨密度測定【中止】

(4) 会員企業による工場見学実施への支援

「6月1日牛乳の日」「6月牛乳月間」の認知度を更に高め、消費拡大につながるよう、工場見学を実施する会員乳業者の工場を当協会ホームページで紹介し、要望に応じて普及・啓発に関する資料やノベルティグッズ(3-A-Day オリジナル付箋)を無償提供した。

現在でも工場見学を休止している会員乳業者がほとんどであるが、再開した場合は、その旨を協会ホームページで告知している。

(5)「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」の開催

ジャーナリストや消費者等を代表するオピニオンリーダーを委員とし、委員による情報発信と、その内容が業界や企業の活動に反映されることを期待して、食に関連する話題（学術、行政、トピックス等）について講演会と意見交換等を行っている。上期は2回ともは中止となり、第101回を11月16日に、第102回を3月29日に行った。

・第101回…11月16日／講演

「新型コロナウイルス感染症拡大が酪農・乳業へもたらした影響と対応について」

講師：農水省 生産局 畜産部 牛乳乳製品課



「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」風景

・第102回…3月29日／講演

「牛乳乳製品に関する食生活動向調査2020より ～コロナ禍での生活者の意識と行動変化を追う～」

講師：一般社団法人Jミルク 学術調査グループ

(6)「酪農乳業ペンクラブ」の運営

酪農乳業に関する迅速な情報収集と、会員である専門紙誌17社の記者による的確な情報発信を図るため、「酪農乳業ペンクラブ」の事務局として、会員へ正しい知識と情報をタイムリーに提供する場及び交流の場としての研修会や見学会を企画・運営している。4月「春季見学会・懇談会」は中止、7月「総会・視察研修会」は、視察研修会を中止とし、総会は書面で開催した。1月29

日に予定していた「冬季研修会・懇談会」を「春季研修会」として3月24日に開催した。

(7) 普及・啓発活動の充実・強化に向けた取り組み

① 行政・関係機関訪問による食育勉強会・食育授業の実施促進

首都圏及び近畿圏の行政や教育委員会等の関係機関を訪問し、特に「学校・教育関係者や保護者対象の食育勉強会」や「中学校での食育授業」の実施を働きかける。本年度は一部の都府県以外は訪問が中止となった。来年度も食育勉強会・食育授業については、感染防止に対する先方の考え方を確認した上での実施を予定している。

② 普及・啓発ツールの充実と会員への提供

普及・啓発活動に使用するパンフレット類の内容を見直すとともに、会員からの提供依頼や新規作成に関する要望に対応した。また、ホームページの「乳と乳製品の知識」の内容についても適時見直している。なお、本年度は十分な普及・啓発活動ができない状況の中、有効な活動をしていただくよう、パンフレット類の提供を無償で行った。

③ 広報委員会の運営

正会員乳業7社の広報・お客様相談部門の代表者で構成され、乳業における広報課題や時宜問題に関する情報交換と課題検討を行う。上期は実施できず、12月23日に本年度第1回目を開催し、コロナ下における各社及び当協会の広報活動の経過と今後の見通しを共有した。

④ 食育活動分科会の運営

正会員乳業6社の食育に係わる実務担当者と当協会相談員で構成し、食育活動の実施状況に関する情報交換を行っているが、状況を注視しつつ開催を検討したが、開催できなかった。

⑤ 東京連絡会・関西連絡会の運営

正会員乳業6社の、東京及び大阪在勤のお客様相談・広報担当で構成され、毎月、当協会の活動や相談対応状況の報告と情報提供、各社からの情報提供と意見交換を行う。地域毎の状況を注視しつつ、可能と考えられる場合は開催した。

3) 乳業事業の改善

(1) 需給均衡の推進

牛乳乳製品需給検討委員会にて需給予測を作成し、そこから予見される課題について議論し、対応策を講じた。

① 牛乳乳製品の需給予測

生乳生産量の増加と新型コロナウイルス感染症拡大の影響による需要量

の減少等により牛乳乳製品需給は緩和傾向にあるため、今後、脱脂粉乳・バター在庫は増加する方向に向かうと見込まれている。このため、定期的に牛乳乳製品需給検討委員会を開催して需要量・生産量及び在庫水準等について需給予測を検討し、HP等を通じて会員に情報提供した。

バター、脱脂粉乳については生乳生産の増加と新型コロナウイルス感染症拡大の影響も加わった需要量の減少等により在庫が増加している。また、2021年度の需給予測では、バター、脱脂粉乳ともに需要量が国産供給量を下回ると予測されたことから、今後も需給状況を十分に見極め、需要量と生産量及び在庫水準等について精度の高い予測を作成していく。

② 乳製品需給の過不足対応

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、これまでに経験したことがないほど不安定な需給状況となった。需給検討委員会を通じた情報等をもとに、会員に対してタイムリーな情報発信を行うとともに、農水省等の関係機関に対して、必要に応じた適時・適量・適価での乳製品の輸入・放出対応の要請等を行った。

こうした要請などを踏まえ、農水省は2020年度の乳製品の輸入枠（バター20千トン・脱脂粉乳4千トン）について、バター14千トン、脱脂粉乳0.75千トンに引き下げた。また、1月29日に農水省は、2021年度の輸入枠をカレントアクセスの範囲内にとどめ、バター6.4千トン、脱脂粉乳0.75千トンとすることを公表した。

また、農水省が実施する生乳需給改善促進事業等を活用しながら、牛乳乳製品の需給均衡に向けた取り組みを支援した。

③ 牛乳乳製品需給検討委員会の開催

7月22日、10月15日、12月15日及び2月16日に需給検討委員会を開催し、その都度需給予測をHPに公表した。

(2) 酪農関連制度等への対応

① 「酪肉近代化基本方針」、「畜産経営安定法」等への対応

乳業基本問題検討委員会を適宜開催し、「酪肉近代化基本方針」、「畜産経営安定法」等への対応に対して想定される課題を分析し、迅速に対応するとともに、必要に応じて行政との意見交換を実施した。

11月26日に第2回乳業基本問題検討委員会を開催し、畜産部会における乳業者としての意見表明内容等について協議し、農水省からの要請に応じて書面による意見を事前に提出するとともに、12月10日に開催された令和2年度第1回畜産部会において、西尾会長が乳業者としての意見表明を行った。

② 関連団体事業への対応

7月10日、11月26日及び2月17日に乳業基本問題検討委員会を開催し、Jミルクの提言「力強く成長し信頼される持続可能な産業を目指して」～我が国酪農乳業の展望ある未来に向けた戦略ビジョン～に係る乳業としての対応などについて検討を行った。また、2月17日の第3回乳業基本問題検討委員会では、当面の需給緩和への対応策として、(1)脱脂粉乳対策、(2)バター対策、(3)チーズ対策の検討などについて協議した。

(3) 国による乳業関連事業への対応

① 学校給食用牛乳供給事業制度の円滑な推進

Jミルクの「学乳問題特別委員会」に参画し、学乳の安定供給と安全性確保等の課題解決に関して適切な意見発信を行うとともに、6月26日にJミルクから農林水産大臣に学乳事業の継続を柱とした要請書を提出した。

② 乳業再編事業の支援

農水省が実施する「乳業等の再編・合理化に向けた取り組みへの支援（ハード事業）」について、事業を活用する乳業者に対して必要なサポートを行うこととしている。

③ その他の乳業関連補助事業の支援

その他の乳業関連補助事業等に関しては、農畜産業振興機構が公募した、生乳需給改善促進事業及び学校給食用牛乳処理対策事業について、事業実施主体として取り組み、事業を活用する乳業者に対して必要なサポートを行った。

(4) 災害関連事業への対応

① 災害等による非常時の対応強化に向けた国のS I P物資支援システム（仮称）の開発に係るワーキンググループに参画し、災害時の物資供給支援システムの開発に協力する。12月21日に開催されたサブワーキンググループでは、事業実施主体である日立製作所からプロトタイプ機能について説明があり、引き続き課題を検討することとなった。

② 2019年7月に取りまとめた「災害リスク管理対策のあり方に関する報告書」に基づき、乳業施設における非常時の対応強化について、引き続き会員乳業者の取り組みを支援することとした。

4) 国際化の進展への対応

国際貿易交渉等への対応として、業界意見の集約と行政への提言・意見具申に取り組む。

(1) 業界意見の集約と行政への提言・意見具申

T P P 1 1、日 E U ・ E P A、日米貿易協定、日英 E P A等の実施状況などを注視し、必要に応じて乳業基本問題検討委員会を開催し、情報発信と意見集約を行った。

また、意見集約の内容を踏まえ、国に対して日本の酪農・乳業への影響を最小限にとどめるための施策等に関する意見具申や提言を引き続き行うこととした。

(2) 牛乳乳製品輸出部会の運営等

日本畜産物輸出促進協議会の牛乳乳製品輸出部会を運営し、牛乳乳製品の輸出拡大に向けた体制整備や輸出関連補助事業等を活用した活動に取り組む。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から国際展示会への参加等は中止し、輸出口ゴマークの登録や日本産牛乳乳製品情報の多言語発信に取り組んだ。

また、農林水産省が公募した「畜産物輸出産地緊急対策事業」に応募し、日本産牛乳乳製品の新たな需要フロンティアの開拓を図るためにアメリカの牛乳乳製品市場調査等を行うこととした。調査委員の米国への派遣は中止し、W E B調査や在米調査員による調査等を中心に報告書を取りまとめ、3月17日に最終報告書をH Pで公表した。

5) 環境・リサイクル対策の推進

企業にとっても環境問題への取り組みは年々重要性が高まっており、当協会では、経団連/低炭素社会実行計画ワーキンググループ（以下「WG」とする）の一員として 2030年度までのCO₂排出量目標を掲げ、また 経団連/循環型社会形成自主行動計画WGの一員として、2020年度までの産業廃棄物最終処分量削減目標と再資源化率アップの目標を掲げて推進した。

(1) 環境問題への対応

① 地球温暖化防止の取り組みに関する事業

経団連が主導する低炭素社会実行計画に参画し、以下の 2 項を目標に地球温暖化防止の取り組み事業を推進した。

- 2020年度の目標として、エネルギー原単位を前年比 1%以上削減する。(基準年 2013 年度)
- CO₂排出量を年率 1%以上削減し、CO₂排出量 100 万トン以下を継続する。
2019 年度実績として、経団連に「エネルギー原単位：前年度比 4 %増、CO₂排出量：9 6 万トン」を報告した。
生産量を分母としたエネルギー原単位を削減することを目標としている

が、プロダクトミックスの変化に伴い見かけ上悪化傾向となっており、目標未達である。来年度以降、売上高を分母とするエネルギー原単位に変更し、努力の可視化を推進していくこととしている。

また、経団連が主導する「2050 年を展望した温暖化対策の長期ビジョン」の求めに応じて、2050 年業界目標の策定を検討していたが、2020 年 10 月に政府目標の変更が発表されたことから政府方針に沿った目標となるよう再検討することとした。

② 循環型社会形成推進の取り組みに関する事業

経団連が主導する循環型社会形成自主行動計画に参画し、下記目標を推進した。

- 「2020 年度までに安定的に、再資源化率 97%以上、最終処分量を 900 トン以下とする。」

2019 年度実績として、経団連に「再資源化率 97.3%、最終処分量 535 トン」を報告した。

最終処分量削減の取組みとして当協会環境委員会主導の自主行動廃棄物改善WGで、全国・地域 共同プロジェクトへの都道府県会員の参画促進を進めてきた。特に、複合素材容器や内容物と容器が分離しにくい製品等、会員各社が処理に困っている廃棄物を調査して、共同配送するプロジェクトの構築を図ってきている。本年度は食品リサイクル率の向上に寄与することが出来る岡山県のメタン発酵処理施設を会員に周知した。

また、次期(2021~2025 年度)の目標を以下の通り設定した。概ねこれまでの目標を踏襲しているが、プラ関連目標には新たに数値目標を加えた。

- 1)最終処分量削減目標：2000 年度比 97%以上削減を維持する。
- 2)業種別独自目標：[再資源化率]：2025 年度に 97%以上を目指す。
- 3)業種別プラ関連目標：

[数値①]製造工程から排出される廃プラスチックについて、資源化率 95%以上を目指す(新規)

[定性①]容器包装プラスチックの使用量を可能な限り抑制するよう商品設計を行う

[定性②]容器包装などのプラスチック原材料として、環境に配慮した素材の使用を推進する

③ 環境マネジメントシステムの向上に関する事業

「環境関連法令マネジメントチェックシート」の活用に向け、会員(都道府県会員を含む)への周知徹底を図るため、毎年 10 月の定期改訂に合わせて、11 月 17 日に改訂内容説明・解説セミナーを、2 月 24 日に重点セミナーをオンライン開催した。

(2) 容器包装 3R への対応

① 飲料用 紙パック リデュース活動の推進

3R 推進団体連絡会で策定した、2016～2020 年度/自主行動計画 2020 に則り、他の容器包装 7 素材とともに、リデュース活動に取り組んできた。

○「500ml 牛乳用紙パックに使用する原紙を 2020 年度までに約 3%軽量化する」の達成に向け、会員への要請活動を継続し実績集計作業を実施。2019 年度実績値は 2.9%であった。

○2021 年度以降もこれまでの「500ml 牛乳用紙パックに使用する原紙を約 3%軽量化する」目標を継続していくこととする。

② 飲料用 紙パック リサイクル活動の推進

2016～2020 年度行動計画「プラン 2020」を策定し活動している全国牛乳容器環境協議会（以下「容環協」）を引き続き支援した。容環協の活動はイベント等の対面活動はほぼ中止となったが、オンラインなど非対面でできる活動の検討やホームページの更新などを実施（11 月 25 日～28 日エコプロ 2020、12 月 19 日～1 月 17 日エコライフ・フェア 2020 Online）。また、人気お笑いコンビ、マシンガンズによるリサイクル啓発動画を作成した。



○2019 年度実績である「回収率 41.4%」を 12 月に公表した（前年度 42.5%）。

2021 年度以降の行動計画「プラン 2025」を策定し、回収率目標 50% に継続して取り組むこととした。3R 推進団体連絡会の他の 7 素材と共に「自主行動計画 2025」として 4 月下旬に発表予定。

(3) 各種団体活動への参画

食品関連の各種課題に対応した委員会やWG等に参画し、当協会会員に内容を伝達するとともに意見・要望を表出した。

→委員会等（4～1 月）；食品産業センター（4 回）、プラ推進協（4 回）、紙

リ協、経団連(4回)、3R推進団体連絡会(11回)、LL研究会(2回)

また、3月に閣議決定された「プラスチック資源循環促進法案」に関連してとりまとめられた「今後のプラスチック資源循環施策のあり方について(案)」及び「バイオプラスチック導入ロードマップ(案)」のパブリックコメントに、それぞれ7件、6件の意見を提出した。関連して経産省からのヒアリングにも応じ、業界としての意見や懸念事項についても伝えている。

6) 事業共通の取り組み

当協会のステークホルダー(会員、消費者、関係団体、行政など)に対して、有用な情報を迅速かつ適切に提供した。

また、関係団体活動への積極的な参画により、会員の意思に基づく乳業界の意見反映に取り組んだ。

(1) 協会会員への支援

新型コロナウイルス感染症拡大では、休校に伴う学校給食用牛乳の供給停止や外出自粛要請、休業要請に伴う業務用の需要減少が特に学乳事業を主体とした中小乳業者の経営問題となったため、協会員に対し以下の支援を行った。

- ① 傘下会員の事業規模、内容等を鑑み、影響が大きいと考えられる都道府県協会会員より第2四半期以降の会費徴収(27,512千円)を行わなかった。
- ② 2020年度に有償化を予定していた、ノベルティグッズ、パンフレット類を無償化(上期約850千円)することで、提供先の拡大を図り、感染収束後を見据えた牛乳・乳製品の需要拡大に向け、普及・啓発活動の一助とした。

(2) ブロック会議及び全国事務局長会議の開催

全国8ブロック(北海道、東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿、中国、四国、九州・沖縄)において、上期ブロック会議は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、中止となった。また、12月の全国事務局長会議も中止となった。下期ブロック会議は関東・甲信越ブロック、北海道ブロック、近畿ブロックにて開催予定であったが、緊急事態宣言の再発令により中止となった。

(3) 会員アンケートの実施

会員を対象にした、当協会の活動に対する意見・要望を募るアンケートを本年度も8月3日発信～9月11日締切りで募集を行った。意見・要望は2021年度の事業計画に反映させるとともに、当協会の見解と合わせて会員に提示すると共に、ホームページに掲載した。

(4) ホームページを活用した情報提供の充実

本年度も以下の項目及び都度発生する事象について、タイムリーかつ有用な情報発信を行っている。また、毎月ホームページ運営委員会を開催し、アクセス記録等を参考に、ホームページリニューアル後の利用状況の確認を行いながら、改善を図った。

- ① 当協会の運営、会議情報
- ② 乳・乳製品の知識、普及・啓発につながる情報
- ③ 研修会、セミナーの開催情報
- ④ 環境への取り組み情報
- ⑤ 食品衛生関係、需給予測などの情報

(5) 関係団体活動への参画

酪農乳業共通の課題解決のため、また、都度発生する他団体の課題検討に対しても積極的に参画し、乳業者の立場として意見発信をしていくとともに、取り組みに協力した。

東京オリンピック・パラリンピックは1年延期となったが、東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みである「2020TDMプロジェクト」に参画した。

(6) 協会の円滑な業務推進に向けた体制の強化

本年度も協会事業が円滑に推進されるように、協会運営や推進体制に係る課題解決に向けての「働き方改革」の取り組みを進めた。

特に今般の新型コロナウイルス感染症拡大への対策として在宅勤務と時差出勤の適切な活用に取り組んだ。直近の2021年1～3月までのオフィス出勤率は4割程度となっている。また、通勤手段としてシェアサイクルの利用を可能とした。現在の状況下での事業継続の観点から「Web会議、Web参加マニュアル」、「会議開催時における新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン」も作成した。

(7) SDG's 関連の活動

当該取り組みの最初の一歩として、6月11日と11月12日に千代田区の「一斉清掃活動」に参画し、乳業会館周辺の清掃活動を乳業会館内団体と協同で行う予定にしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から区の活動自体が中止となった。

以 上

《 2020年度 会議等開催及び出席実績》

I. 共通・総務部

2020年4月 ～ 2021年3月実績

1. 総会・理事会等

開 催 日	開 催 名
4月17日	第42回理事会（書面開催）
5月15日	第9回定時社員総会・第43回理事会（書面開催）
6月11日	第43回理事会（書面開催）
6月30日	第5回臨時社員総会（書面開催）
8月21日	令和2年度牛乳等衛生功労者表彰式選考会
10月16日	賛助会員の会【中止】
11月13日	第45回理事会
	令和元年度牛乳等衛生功労者表彰式・祝賀会【中止】
12月 4日	全国事務局長会議【中止】
1月 6日	乳業団体合同新年賀詞交換会【中止】⇒新年挨拶動画撮影
3月12日	第46回理事会

2. 会員の総会等への出席

開 催 日	開 催 名
なし	

3. ブロック会議

開 催 日	開 催 名
本年度は全ブロック中止 （上期・下期とも）	

II. 企画・広報部

【企画関係】

1. 乳業基本問題検討委員会

開 催 日	開 催 名
7月10日	第1回乳業基本問題検討委員会 （1）新たな環境下における酪農乳業の方向及び政策のあり方の検討について （2）Jミルク「提言」における乳業の検討事項について
11月26日	第2回乳業基本問題検討委員会（Web会議） （1）Jミルク「提言」における検討報告－生産関係WG－について （2）令和3年度畜産物価格及び畜産をめぐる情勢に対する意見（案）について
2月17日	第3回乳業基本問題検討委員会（Web会議） （1）Jミルク「提言」の乳業による報告について （2）「提言・基本方針推進検討会」－2021年度における検討の方向－について （3）当面の需給緩和への対応策

2. 需給検討関係

開 催 日	開 催 名
7月22日	第1回牛乳・乳製品需給検討委員会
9月15日	第2回牛乳・乳製品需給検討委員会（Web会議）
12月15日	第3回牛乳・乳製品需給検討委員会（Web会議）
2月16日	第4回牛乳・乳製品需給検討委員会（Web会議）

3. Jミルク事業関係

開 催 日	開 催 名
5月19日	第1回Jミルク需給委員会（Web会議）
6月8日	第1回学乳問題特別委員会（Web会議）
7月16日	第2回Jミルク需給委員会（Web会議）
9月17日	第3回Jミルク需給委員会（Web会議）
10月23日	第1回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会・酪農乳業SDGs推進WT合同会議（Web会議）
11月20日	第2回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会・酪農乳業SDGs推進WT合同会議（Web会議）
12月11日	第3回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会・酪農乳業SDGs推進WT合同会議（Web会議）
12月16日	第4回Jミルク需給委員会（Web会議）
1月7日	第5回Jミルク需給委員会（Web会議）
1月22日	第4回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会・酪農乳業SDGs推進WT合同会議（Web会議）
2月12日	第5回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会・酪農乳業SDGs推進WT合同会議（Web会議）

【広報関係】

1. 広報委員会

開催日	開催名
12月23日	広報委員会 (議題) コロナ禍における各社広報活動の状況と今後の見通し

2. 連絡会

開催日	開催名
4月8日	4月度関西連絡会 【中止】
10日	4月度東京連絡会 【中止】
5月8日	5月度東京連絡会 【中止】
13日	5月度関西連絡会 【中止】
6月10日	6月度関西連絡会 【中止】
12日	6月度東京連絡会
7月8日	7月度関西連絡会 【中止】
10日	7月度東京連絡会
8月5日	8月度関西連絡会 【中止】
7日	8月度東京連絡会
9月11日	9月度東京連絡会
16日	9月度関西連絡会
10月9日	10月度東京連絡会
14日	10月度関西連絡会
11月6日	11月度東京連絡会
11日	11月度関西連絡会
12月9日	12月度関西連絡会 【中止】
11日	12月度東京連絡会 【中止】
1月13日	1月度関西連絡会 【中止】
15日	1月度東京連絡会 【中止】
2月10日	2月度関西連絡会 【中止】
12日	2月度東京連絡会 【中止】
3月5日	3月度東京連絡会 【中止】
10日	3月度関西連絡会 【中止】

3. 酪農乳業ペンクラブ関係

開催日	開催名
5月22日	幹事会
7月2日～3日	総会・視察研修（新潟県佐渡市） 【10月に延期】
8月21日	幹事会
9月25日	秋季懇談会 【中止】
10月12日	幹事会
10月22日～23日	総会・視察研修（新潟県佐渡市） 【中止】
12月22日	幹事会
1月下旬	冬季研修会&懇談会（農林水産省牛乳乳製品課講演） 【3月24日に延期】
2月24日	幹事会
3月24日	春季研修会（農林水産省牛乳乳製品課講演） 【懇談会は中止】
3月中旬	春季見学会&懇談会 【5月下旬に延期】

4. 牛乳・乳製品から食と健康を考える会

開催日	開催名
5月11日	第101回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」 【9月7日に延期】
9月7日	第101回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」 【11月16日に延期】
11月16日	第101回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」
2月15日	第102回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」 【3月29日に延期】
3月29日	第102回「牛乳・乳製品から食と健康を考える会」

5. 外部会議関連

開催日	開催名
6月27日～28日	第15回食育推進全国大会（愛知県常滑市） 【中止】
	東京都・健康づくりフォーラム・展示（東京都庁） 【中止】
7月30日～31日	第61回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会（栃木県宇都宮市） 【中止】

Ⅲ. 生産技術部

1. 生産技術委員会

開催日	開催名
7月14日	生産技術委員会 1) 人材育成計画の進捗状況と今後の見直しについて 2) 牛乳等容器の包装規制の見直し要望について 3) Jミルクの提言について
2月16日	生産技術委員会 1) 2020年度人材育成計画の進捗状況と2021年度計画について 2) Jミルク提言に対する制度WGからの回答案について

2. 乳製品表示検討委員会

開催日	開催名
6月19日	第1回乳製品表示検討委員会 (議題) 表示ガイドライン改定案の検討
11月4日	第2回乳製品表示検討委員会 (議題) 表示ガイドライン改定案の検討
1月19日	第3回乳製品表示検討委員会 (議題) 表示ガイドライン改定案の検討、次年度講習会の内容検討

3. 調製粉乳技術小委員会

開催日	開催名
11月27日	調製粉乳技術小委員会 (議題) WHOコードに関する情報共有

4. HACCP検討小委員会

開催日	開催名
5月10日	第1回HACCP検討小委員会 (議題) 講義内容の見直し、講義スライドの修正
10月23日	第2回HACCP検討小委員会 (議題) HACCP手引書講習会の内容検討
3月17日	第3回HACCP検討小委員会 (議題) HACCP手引書講習会の内容検討

5. 牛乳衛生講習会

開催日	開催名
9月15日	牛乳衛生講習会 (東飲協と共催・WEB配信形式にて開催)
12月2日	牛乳衛生講習会 (群馬県牛乳協会との共催)
3月9日	牛乳衛生講習会 (静岡県牛乳協会との共催)

6. HACCP専門家養成講習会

開催日	開催名
	全て中止

7. HACCP手引書講習会

開催日	開催名
	全て中止

8. 乳製品表示講習会

開催日	開催名
2月17日～3月2日	乳製品表示講習会オンデマンド配信

9. 外部会議への出席

開催日	開催名
4月12日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門部会【中止】
4月17日	東京飲用牛乳協会 第1回品質改善委員会【中止】
5月16日	食品産業センター コーデックス対策委員会【中止】
5月24日	全国飲用牛乳公正取引協議会 定時総会【書面開催】
6月12日	東京飲用牛乳協会 第2回品質改善委員会【中止】
6月14日	食品産業センター コーデックス対策委員会【中止】
7月28日	官能評価員能力向上・認定事業第1回検討会
9月24日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門小委員会【中止】
9月24日	官能評価員能力向上・認定事業第2回検討会
10月9日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門部会【書面開催】
11月11日	東京飲用牛乳公正取引協議会 品質改善委員会
11月27日	Jミルク第1回安全性確保品質向上委員会【web開催】
12月18日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門部会
1月13日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門部会
1月29日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門部会【書面開催】
2月18日	東京飲用牛乳公正取引協議会 品質改善委員会
3月2日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門小委員会
3月4日	JIDF規格専門部会／乳・乳製品部会合同会議【web開催】
3月18日	Jミルク第2回安全性確保品質向上委員会【web開催】

10. 各種審議会・懇談会等の出席・傍聴

開催日	開催名
7月29日	厚労省HACCP手引書検討会事前会議
8月3日	食品衛生懇話会 (主催：日本食品衛生協会)【傍聴】
12月23日	厚労省HACCP手引書検討会

Ⅳ. 環境部

1. 環境委員会他

開催日	開催名
4月8日	【中止】環境委員会
23日	【中止】プラ推進協/広報専門部会
5月19日	【中止】食品産業センター/環境委員会
22日	【WEB】LL紙バックリサイクル推進研究会/運営委員会
22日	【書面】紙製容器包装リサイクル推進協議会/理事会
6月3日	【WEB】容リ協/紙容器事業委員会
4日	【WEB】国際酪農連盟/環境常設委員会
5日	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会/定時総会
9日	環境マネジメントWG → 今年度は中止
9日	【WEB】プラスチック容器包装リサイクル推進協議会/広報委員会
17日	紙製容器包装リサイクル推進協議会/定時総会
18日	経団連自主行動計画フォローアップ説明会
7月10日	酪農乳業基本問題検討会
13日	食品産業センター環境委員会
21日	【WEB】中環審・産構審プラ資源循環合同会議傍聴
29日	経団連廃棄物・リサイクルWG（経団連会館）
31日	【WEB】LL紙バックリサイクル推進研究会/会員全体会議
8月4日	環境委員会（リモート併用）
11日	【WEB】プラ推進協広報専門委員会
15日	食産センター環境委員会
30日	【WEB】経団連2021年度説明会
10月6日	環境委員会（リモート併用）
20日	容リ協紙容器事業委員会
29日	紙バックリデュースワーキンググループ
11月17日	【WEB】環境関連法令チェックシート活用セミナー
17日	食品産業センター環境委員会
25日	【中止】LL研/エコプロ2019出展応援（東京ビッグサイト）
25日	【中止】プラ推進協/エコプロ2019出展応援（東京ビッグサイト）
12月8日	環境委員会（リモート併用）
14日	【WEB】経団連/廃棄物リサイクル部会
10日	食品産業センター/廃プラスチックリサイクル施設視察
1月19日	【中止】食品産業センター/環境委員会
2月9日	【WEB】プラ推進協広報専門委員会
10日	環境委員会（フルリモート）
24日	【WEB】経団連廃棄物・リサイクル部会
24日	【WEB】環境法令重点セミナー
26日	【WEB】JIDF製造技術専門部会
3月3日	容リ協紙容器事業委員会
3月16日	【WEB】LL紙バックリサイクル推進研究会/運営委員会
16日	【WEB】食品産業センター/環境委員会
26日	酪農乳業基本問題検討会

2. 全国牛乳容器環境協議会関係

開催日	開催名
4月2日	【中止】広報委員会
7日	【中止】総務・支部組織委員会
8日	【中止】イベント委員会
10日	監事監査
15日	【書面開催】理事会
15日	【中止】月次運営委員会
21日	通常総会・理事会
5月8日	【中止】広報委員会
8日	【中止】イベント委員会
12日	【中止】総務・支部組織委員会
20日	【書面開催】第1四半期運営委員会
6月2日	【WEB】容環協/総務・支部組織委員会
4日	広報委員会
6～7日	【延期】エコライフフェア
10日	イベント委員会
12日	【書面開催】月次運営委員会
7月3日	イベント委員会
3日	広報委員会
7日	総務・支部組織委員会
15日	企画運営委員会（月次運営委員会）
21日	PLAN2025ワーキング（第1回）
21日	広報委員会（8月度）
28日	イベント委員会（8月度）
30日	PLAN2025ワーキング（第2回）
8月3日	総務・支部組織委員会
4日	川崎市打合せ
19日	川崎市立東小倉小学校出前授業
19日	企画運営委員会（第2四半期運営委員会）
20日	PLAN2025ワーキング（第3回）
21日	広報委員会
9月9日	イベント委員会
10日	広報委員会
16日	総務・支部組織・月次運営委員会
17日	PLAN2025ワーキング（第4回）
10月1日	広報委員会
7日	イベント委員会
14日	総務・支部組織・月次運営委員会
15日	牛乳紙バックで「遊ぶ学ぶ」コンクール1次審査
20日	PLAN2025ワーキング（第5回）
28日	基本調査報告
29日	広報委員会

開 催 日	開 催 名
1 1 月 5 日	牛乳紙バックで『遊ぶ学ぶ』コンクール審査会
1 1 日	企画運営委員会（第3四半期運営委員会）
1 2 日	広報委員会
1 8 日	イベント委員会（臨時）
1 2 月 2 日	イベント委員会
1 2 月 3 日	P L A N 2 0 2 5 ワーキング（第6回）
3 日	広報委員会
9 日	総務・支部組織・月次運営委員会
1 1 日	第88回理事会
1 7 日	広報委員会
1 9 日	【WEB】エコライフ・フェア2020（1月17日まで）
2 1 日	P L A N 2 0 2 5 ワーキング（第7回）
1 月 7 日	広報委員会（臨時）
7 日	P L A N 2 0 2 5 ワーキング（第8回）
1 5 日	イベント委員会
2 0 日	総務・支部組織・月次運営委員会
2 9 日	P L A N 2 0 2 5 ワーキング（第9回）
2 9 日	【中止】地域会議in千葉
2 月 1 日	古紙再生促進センター 全国小中学校”紙リサイクルコンテスト2020”
2 月 2 日	総務・支部組織委員会
3 日	イベント委員会
4 日	広報委員会
8 日	P L A N 2 0 2 5 ワーキング（第10回）
1 2 日	リサイクル講習会（松戸市）
1 2 日	飲料用紙バック回収促進意見交換会
1 7 日	第4四半期-企画運営委員会
3 月 1 日	P L A N 2 0 2 5 ワーキング（第11回）
4 日	イベント委員会
4 日	広報委員会
1 0 日	総務・支部組織・月次運営委員会
1 8 日	第89回理事会
1 9 日	紙バック回収システム強化研究会
2 2 日	基本調査報告会

3. 飲料用紙容器リサイクル協議会関係

開 催 日	開 催 名
4 月 1 6 日	【書面開催】3 R 推進団体連絡会（ガラスびんR協）
5 月 1 2 日	【中止】3 R 推進団体連絡会
5 月 1 4 日	通常総会
6 月 1 1 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（プラ推進協）
7 月 8 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（スチール缶R協会）
7 月 1 6 日	3 R 市民リーダー研修会（乳業会館）
8 月 7 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（プラ推進協）
9 月 2 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（飲紙協）
9 月 2 4 日	3 R 交流セミナー（函館）
1 0 月 7 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（段ボールR協）
1 1 月 4 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（ガラスびん3 R 協）
1 6 日	3 R 臨時運営会議
2 5 日-2 8 日	【WEB】エコプロ2020 8 団体共同ブース支援
1 2 月 3 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（PET協）
8 日	3 R 推進団体連絡会 フォローアップ報告説明（農水省、経産省、環境省）
9 日	3 R 推進団体連絡会 容リ懇談会
1 0 日	3 R 推進団体連絡会 記者説明会
1 月 1 3 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（オンライン）
2 8 日~2 月 1 日	【WEB】容器包装3 R 推進フォーラム
2 月 3 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（オンライン）
9 日	3 R 自治体向け情報交換会（乳業会館+オンライン）
1 8 日	【中止】意見交換会「容器包装3 R 交流セミナー」（鹿児島市）
3 月 4 日	3 R 推進団体連絡会運営会議（ガラスびんR協）
2 3 日	3 R 推進団体連絡会 自主行動計画2025ステークホルダー・ヒアリング*（神戸大学石川先生）
2 5 日	3 R 推進団体連絡会 自主行動計画2025ステークホルダー・ヒアリング*（元気ネット）
3 0 日	3 R 推進団体連絡会臨時運営会議（PET協）
3 0 日	3 R 推進団体連絡会 自主行動計画2025ステークホルダー・ヒアリング*（経団連）

事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。